

「教員免許状更新講習」

★事業の概要★

事業のねらい

教員が、学習指導要領で示された児童・生徒の「体験活動」の必要性について一層の理解を深め、その実習体験をすることにより、教員としての資質の向上を図る。

期 日

平成23年10月 8日（土）～10月10日（月）

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

小学校教諭（平成23・24年度末が修了確認期限の方）
*中学校、高等学校及び特別支援学校教諭も受講可能

参加者/参加募集人員

23名：30名（参加者内訳：教員 小学校14名、中学校6名、高等学校3名）

講 師

丸 昇 氏（富良野看護専門学校 学校長）
宮川 八岐 氏（國學院大學 教授）
小笠原 啓之 氏（北海道雪プロジェクト 事務局長）
伊藤 健太郎 氏（北海道雪プロジェクト）
新野 和也 氏（NPO法人どんころ野外学校 インストラクター）

日 程

				1300 1330		1500		1700 1720 1900		2000	2200
10/8 (金)			受付	開講式	教育の現状と課題	教育課程と体験活動の関連性	つどい	夕食	学級づくりに生かす活動集		入休就浴憩寝
	7:15	7:30	9:00	11:00	12:30	13:30		17:00 17:20 19:00		20:30	22:00
10/9 (土)	つどい	朝食	地域の自然を学ぶ	青少年施設と学校	昼食	自然体験活動技術①	つどい	夕食	自然体験活動技術②		入休就浴憩寝
	7:15	7:30	9:00	11:00	12:30	13:30		15:00			
10/10 (日)	つどい	朝食	学級における信頼関係づくり①	学級における信頼関係づくり②	昼食	履修認定試験 択一問題 小論文	閉講式	解散			

★プログラム紹介★



講義 教育の現状と課題～教員への期待～

新学習指導要領全面実施（小学校）に伴う文部科学省の動向と教育研究者の論文、提言等から、教育現場の置かれている現状と課題についてお話しいただいた。



講義 教育課程と体験活動の関連性

今、学校現場で求められている体験活動の具体例と、体験活動で育成できる児童・生徒の能力についてお話しいただいた。



実習 地域の自然を学ぶ

雪を扱った授業実践の紹介の後、受講者自身も雪を扱った授業づくりを考え、そのアイデアを交換し合った。



実習 自然体験活動指導技術①

交流の家周辺の森に入り、ネイチャーゲームを体験しながら自然の魅力を児童・生徒に伝える方法を学び、また野外活動における危険予知や対処法について学習した。



実習 自然体験活動技術②

暗闇と静寂の中だからこそできるナイトプログラムについてその理論を学習し、そこで引き出すことができる感受性を体験することで確かめた。



実習 学級づくりに生かす活動集

アドベンチャー教育の理論をもとにアクティビティを体験し、仲間同士の信頼関係づくりの方法と必要性を学んだ。

企画のポイント

- ① 交流の家職員がもつ交流の家周辺の自然体験活動プログラムやコミュニケーション育成の専門的な知識と経験を生かし、受講者がすぐに学習指導や生活指導に活用したいと思えるプログラムを展開した。
- ② 新学習指導要領の全面実施（小学校）に当たり、その背景や具体的方策の分析・指導に携わった方を講師として招き、受講者が教育を取り巻く現状と課題について身近なものとして把握できる時間を設定した。

事業を終えて（成果・課題）

- ① 交流の家職員が主体となってプログラムを展開したことにより、プログラム全体の流れや関連性が受講者にも容易に把握できたことから、受講者が見通しを持ち関心を高めて自然体験活動技術の向上やコミュニケーション能力育成を目的としてプログラムに臨んでいた。
- ② 教育の現状を様々な視点から捉えることができたことで、受講者から講義に対する満足感を得られた。しかし、体験活動をもっと増やしてほしいという要望も多く、今後は講義の配置や実習との時間のバランスを考慮する必要がある。

今後の方向性

受講者同士の交流の深まりに満足感を得ている様子が事業終了後のアンケートからも明らかになった。今後もプログラム内外を問わず、学校教育現場などでの体験活動の充実のため、受講者同士の人間関係（ネットワーク）づくりに努めていく。